

## 夏季特別インタビュー

## 機能性表示

## 国際栄養食品協会理事長 天ヶ瀬晴信氏に聞く

健食業界が健全な発展を遂げるためには、そこに携わる人材の育成も必要となる。今年9月開講の「AIFNオープンカレッジ新講座」についてAIFNの天ヶ瀬晴信理事長に話を聞いた。また、機能性表示食品制度ができてゆく過程で業界代表の一員として制度設計に深く関わった同氏に、現在の機能性表示制度への見解を聞いた。(小長谷)

——「AIFNオー  
ブンカレッジ」につ  
いて教えてください。

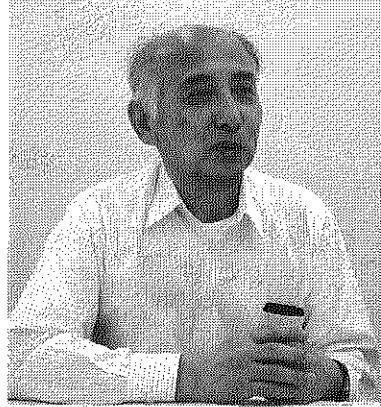
天ヶ瀬 沿協会では、  
ミッションステート  
メントの一つに「健康  
食品全般の一般消費  
者への啓発活動」と  
いった教育事業を掲  
げており、2012  
年から「AIFNオー  
ブンカレッジ」とし  
て専門セミナーや公  
開セミナーなどを  
行つきました。

——9月からの新講  
座では、業界人のた  
めの」と銘打つてい  
ますが、これまでど  
の違いは。

天ヶ瀬 これまでの  
ように、一つのテー  
マやタイムリーな情  
報に特化したもので

はない、新講座では、業界  
に従事する人々に向けた基  
本的な概念や、サプリメン  
トを製造・販売する人々が  
分けている感じ。

健食業界が健全な発展を  
遂げるためには、そこに携  
わる人材を育成し、良質な  
製品やサービスを供給し続  
けることが求められます。  
しかし、近年はサイエン  
スが目まぐるしく進歩し  
専門性がより深まっている  
ため、一企業が単独で人材  
育成を行うことがあります  
困難になつているという話  
をよく耳にします。



## ●プロフィール

天ヶ瀬晴信（あまがせはるのぶ）氏／長崎大学薬学部卒、薬剤師、薬学博士（薬理学）。広島大学から学位授与後1990年に米国に渡り、ペンシルベニア州立大学で栄養学のポスト・ドックを行つたことを皮切りに合計23年間米国に滞在。2013年に帰国。1994年に米国の制度ができるから、研究開発から学術・品質管理など広く企業側からその運用に当たつた。在日米国商工会議所のサプリメント小委員会委員長、広島大学シニア・リサーチ・アドミニストレーターを務める。

## 「オーブンカレッジ」開講

——「AIFNオープンカ  
レッジ」の根底には、業界  
として自分たちの人材を育  
していく社会人カレッジと  
いう考え方があります。新  
講座が業界全体のスキル

——師として協力いただきま  
す。

——最後に、第3次ガイド  
ライン改定など現在の機能

——この新講座を「AIFN  
オープンカレッジ」の基本  
講座として一期生、二期  
生と承継していくと思  
います。されば、新講座に

——また、将来的にこの活動  
が業界全体で進めていく人  
材育成プログラムになって  
いけることを期待していま  
す。

——国は、施設や動向に対  
して、制度をよりよくしてい  
くことが必要です。業界の  
一員としてその制度の更な  
くことは非常に重要です  
。そのためにも業界人の  
遊びの場としてのオープン  
カレッジの意義は大きいと  
思います。

また、昨今は食育業界に  
参入する企業の範囲も広  
がっています。医薬品や経  
験の豊富な食品分野だけで  
なく、全く異業種からの新

性表示食品制度についてどうお考えですか。

天ヶ瀬 当協会は、栄養補  
助食品や健康食品に関する  
国際的ハーモナイゼーショ  
ンを喚起し、日本のサプリ  
メントを含む健康食品市場  
がより健全で、グローバル  
な視点で発展することを目  
指しています。

日本は、海外からの関心は高いのですが、公式な英語版  
のガイドラインなどもな  
く、参入障壁は非常に高い  
ものとなっています。

また、当初は米国の制度  
を参考にして検討が始ま  
った機能性表示食品制度です  
が、米国の制度と比べても  
だいぶ乖離しているを感じ  
ます。

国は、施設や動向に対  
して、制度をよりよくしてい  
くことが必要です。業界の  
一員としてその制度の更な  
くことは非常に重要です  
。そのためにも業界人の  
遊びの場としてのオープン  
カレッジの意義は大きいと  
思います。